

『 絵本を通じて子どもたちに伝える食物アレルギー 』

こども保育科 3年

伊藤 麻咲 高橋 愛菜 水谷 早希

【はじめに】

実習先で食物アレルギーに対する知識が乏しく、食物アレルギーがもたらす怖さを把握出来ていない子どもたちを多く目にしたことから、子どもたちに食物アレルギーの正しい知識を伝える必要があると考えた。そこで、子どもたちにとって親しみがあがり、わかりやすく伝える手段である絵本に着目し、食物アレルギーの学びにつながる絵本を制作した。

【食物アレルギーとは】

食物アレルギーとは特定の食べ物に含まれるアレルギーの原因となる物質に免疫機能が過剰に反応することで、体に様々な症状が現れる現象である。代表的な症状は、かゆみなどの皮膚症状、咳、呼吸困難などの呼吸器症状、目の充血、口の中の腫れや違和感などの粘膜症状である。特に、全身症状が強く生命に危険が及ぶ状態をアナフィラキシーショックと呼ぶ。

【目的】

子どもは、食物アレルギーの怖さを知らずに食物アレルギーの友達にいたずらをしてしまい、アレルギー症状を発症してしまう事例がある。そのため子どもたちへ食物アレルギーに関する正しい知識を伝えることを目的として、食物アレルギーを発症した時にはどのような怖さがあるのか、アレルギー症状の発症時にどのように行動するべきかを分かりやすく伝えるための絵本を制作した。

【方法】

株式会社中央出版様と絵本制作の打ち合わせを行い、絵本制作のノウハウを教えてもらった。絵本の物語を自分たちで考え、子どもたちが絵を見て物語が理解できるように心がけた絵を描いた。

絵本のタイトル 「りこちゃんのえびアレルギー」
対象者 3歳～6歳

【結果】

絵本制作を行う過程で、私たちもアレルギーに対する知識を深めることができ、絵本の物語を一から考えたことで子どもたちにわかりやすく伝える難しさを知ることができた。

また、企業と連携した絵本制作を通じて、実習先で感じた保育現場の現状を細かく再現し伝えることができた。打ち合わせの際に、思い描いた絵本に近づけるために、試行錯誤しながら取り組むことができた。

【考察】

卒業制作という限られた時間の中で仲間と協力し、試行錯誤しながら進めていった。初めての絵本制作は思った以上に難しく、奥が深いものだった。絵本で伝えたい想いを何度も確認し、実際に絵本が出来上がった後、子どもたちが手に取って試している姿を想像しながら、修正を積み重ねていった。結果として、オリジナルの絵本を制作することができた。